



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(46) ヨ
ウラククラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(46) ヨウラククラゲ. 紀伊民報
2011

ISSUE DATE:

2011-12-14

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180179>

RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2011年(平成23年)12月14日 水曜日 第20770号 (10)

ヨウラククラゲ

久保田 信

46



ヨウラククラゲの母体から発射された雄の生殖クラゲ

ヨウラククラゲは冬季に打ち上がるガラス細工のような大型のヒドロクラゲである。非常にしろく、すぐパツにばらばらになる。たぐさんのパツが中心の糸のようなものの周りにつくられているので、珠玉や貴金属に糸を通して作製した装身具の瓔珞(ようらく)のように

ヨウラククラゲは管クラゲ類に所属するので、有性生殖をして次世代をつくるため、クラゲから生殖用クラゲを発射する。画像の個体は生殖のために発射された雄クラゲである。なんともシンプルな姿をしている。大きさはミリ単

位でしかない。今年も12月に入り、外洋性のヨウラククラゲが打ち上げられる季節になった。北西の季節風にあおられて、京都大学瀬戸臨海実験所の北浜に漂着する運の悪い個体待っているのだが、なかなか出合えない。昨冬もまったく確認できなかった。

位でしかない。母体と比べようもないほど小さく、顕微鏡で拡大している。

特徴は、真ん中の白い大きな円筒状の部分だ。この個体には無数の精子が詰まっている。雌だとたぐさんの卵が見える。触手もないので獲物も捕らず、母体から遊離後はただちにたった一度有性生殖をして朽ち果てる運命にある。

このクラゲは母体から遊離後間もない。このことは、傘の天辺に細い管があるのですぐ分かる。自力で栄養が取れないクラゲなので、遊離寸前まで母体からこの管を通して栄養をもらっている。

この短命な生殖クラゲは、一つの母体から数多く発射される。しかし、海は広い。この広大な外洋で異性のクラゲと出合っって子どもをつくり命をつなぐ。こんな運任せのような方法でよくも全滅しないものだといつも感心する。

(京都大学准教授)